

施策評価管理シート

2014(平成26)年7月作成

担当部局名	部長名	連絡先 (担当室名)
生活環境部	藤岡 善光	63-7466 (生活環境政策室)

施策体系	政策	2	美しい自然に包まれた、憩いと潤いのある暮らし
	基本施策	2	循環型社会の創造
	施策	1	省資源・省エネルギー

1. 施策の基本方針

Plan

・省資源・省エネルギーや資源の有効活用に取り組み、地球環境にやさしい持続可能な社会を創造します。

2. 目標

○重点目標

Plan

・名張市EMS、名張市地球温暖化対策実行計画の目標達成のための管理を行います。
 ・省資源・省エネルギーを基本としたエネルギー施策を進めるための基本方針としてアクションプランを策定します。

○目標達成に向けた課題

Plan

・市民が日常生活の中で省資源・省エネルギーへの関心を高めるよう、引き続き取り組みます。
 ・電気機器や発電形態など技術面では省資源・省エネルギーについての進展が見られますが、地球温暖化などによる気候変動が、エアコンなどの冷暖房器具の使用増を余儀なくされ、環境へ配慮する意識の低下が懸念されます。

<行政評価委員会からの意見>
 意見なし

○施策指標 (目標) 及び達成状況

Plan

Do

施策指標 (目標) の内容 (単位)		現状値 (H20)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2015 (H27)	進捗率
日常生活で省資源・省エネルギーを心がけている市民の割合 (%)	目標	-	-	-	96.0		99.0	0%
	成果	93.1	90.3	90.1	89.0	87.3		
市の事務事業にかかる二酸化炭素排出量 (t) (2009年～ 法改正に伴い目標値の変更、現状値は2009 (H21) 年度値)	目標	-	-	-	11,300		11,065	0%
	成果	11,771	11,368	11,068	12,004	12,084		
ISO14001などの環境マネジメントシステム導入事業所数 (社)	目標	-	-	-	18		20	0%
	成果	16	12	10	19	14		
太陽光発電による市内の年間発電量 (kw/h)	目標	-	-	-	1,192,000		1,403,000	100%
	成果	912,000	1,221,000	1,869,000	3,094,000	7,765,000		

3. 取組内容

○課題解決への取組内容

Do

・EMSの取り組み、小学校などへの環境学習の実施、省エネルギーへの取り組みについて広報等で啓発活動を行いました。
 ・庁内においては、クールビズ期間の延長、ウォームビズの徹底、緑のカーテン、エコ通勤、ノー残業デーなどに取り組みました。

<行政評価委員会からの意見にかかる取組内容>
 意見なし

○地域等との連携、協働に向けた取組

Do

・地域では、省資源・省エネルギーの基本であるごみの分別収集やごみの削減を通して、資源循環型社会の構築に努めています。

4. 施策達成のための事務事業及び評価

(合計 1 事業)

Do

Check

事務事業シート番号	事業名・担当室名	事業費 (単位：千円)		担当室による評価			部局による評価		
		2012 (H24)	2013 (H25)	事務事業の施策への貢献	地域づくり組織等との連携・協働	事務シートでの今後の方向	施策達成への貢献度	施策達成への重要度	
		8001	省資源・省エネルギー推進事業	環境対策室	0	0	B	検討している、今後可能性がある	継続（現行）
合計（単位：千円）		0	0						
小計（うち、一般会計分）		0	0						
小計（うち、特別会計・企業会計・組合会計分）		0	0						

5. 部局による施策評価

Check

評価
計画どおり事業推進
成果・評価理由
<ul style="list-style-type: none"> ・EMSの取り組み、小学校などへの環境教育、広報などによる啓発活動を通して、地球環境の重要性を訴えてきました。 ・近年の猛暑や厳冬に見られるように、エアコンをはじめ冷暖房設備の使用が避けられず、日常生活で省資源・省エネルギーへの心がけの低下は見られるものの、太陽光発電の設置が進むなど基本的には、省資源・省エネルギーなど環境への関心が高まっているものと思われます。 ・省資源・省エネルギーを基本としたエネルギー政策の基本的行動指針として「スマートシティなばりエネルギーアクションプラン」を策定し、環境と調和する質の高い地域と暮らしを創造するための取り組みをスタートさせました。

6. 今後の施策の方向性、改善方法

Action

<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習等の実施など一層の省資源・省エネルギーに向けた啓発を進めていきます。 ・市の事務事業に係る二酸化炭素排出量の削減については、設備の入れ替え等の抜本的な改善が必要となっています。 ・快適環境審議会の審議を経て策定した「スマートシティなばりエネルギーアクションプラン」について、庁内で共有し施策の推進に努めることとします。なお、電気自動車の公用車への導入や急速充電器の設置など、次世代自動車の普及を通して、地球環境にやさしい取り組みを進めます。

7. 総合評価

評価
C 施策達成に向けた取組や今後の施策展開が適切に行われているものの、いくつかの課題、改善の余地が見受けられる
評価理由及びその他（意見）
環境負荷低減や資源の有効活用について、市民の関心を高める啓発等の取組と、事業効果の分析結果等をも踏まえながら新エネルギーの導入促進や省エネルギー推進等の施策展開を図る必要がある。